

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【教務部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校

学校番号

106

自己評価

(教務部) 教育目標	・社会自立・職業自立に必要な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。
評価する領域・分野	教育方針・家庭との連携・授業・教育活動の広報・職業教育 等
現状及びアンケートの結果分析等	・教育方針について評価が80%~90%であり、おおむね昨年度同様であった。「交流・生徒の経験を広げる」という項目は過去2年低かったが、今年度89%となった。コロナの5類移行に伴い、学習が計画的に実施できたためと考える。 ・授業では、保護者評価は「授業内容が生徒に即している」が70%台であったが、生徒評価では「分かりやすく楽しく学べ、一人一人に合った教材教具が準備されている」が89%と昨年度より良くなっている。生徒が分かる授業、達成感を味わうような授業を引き続き計画していくと共に、保護者への積極的な教育活動の公開を行っていく。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒の進路希望や学習状況を踏まえた教育課程や具体的な指導内容を検討し、きめ細かな指導を充実する。 ・基礎的・基本的な学習内容の定着を図ると共に、社会生活で活用できる実践力、地域に貢献できる力を育成する。 ・卒業後、「働く人」・「働き続ける人」になれるよう、他分掌と連携した学習活動を計画、実践する。 ・教科の授業等におけるICT活用を推進すると共に、情報教育の充実、教員のICT活用指導力の向上を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	・教科会（一般教科、専門教科）、学年会の計画的な実施 ・情報教育担当によるICT活用についての教員支援及び環境整備 ・生徒が主体的に取り組むことができる学校行事の充実を図るための他分掌との連携
目標の達成に必要な具体的取組	・定期的な教科会や学年会を実施し、指導内容の確認、生徒理解、共有を図る。 ・学習に係る会議などの校内組織体制（役割、内容等）の整備、実施 ・企業内実習・現場実習や学校行事と連動した三者懇談及び進路懇談の計画的な実施 ・「指導と評価の年間計画」の見直しと作成、計画的な指導の実施 ・学校ホームページの充実（定期的な更新）
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・各教科や行事における生徒の振り返りや反省による目標達成度 ・懇談結果や実習後の自己評価及び実習先評価 ・生徒及び保護者・学校運営協議会委員を対象としたアンケートによる回答
取組状況・実践内容等	・教育課程、年間計画、行事等の計画と実施、教科書及び補助教材の検討、教科会の実施、学校要覧及び学校紹介の作成、個別の指導計画の作成、情報教育、視聴覚教材管理
評価の視点	評価
①本校の教育目標に基づいた教育活動を計画・実施できたか	A (B) C D
②各教科や行事において、生徒がやりがいや目標をもって取り組むことができたか	(A) B C D
③校内組織が整備され、円滑な学校運営につなげることができたか	A (B) C D
成果・課題	総合評価
・新学習指導要領の3観点を踏まえ、「指導と評価の年間計画」を見直し、授業計画、指導を行うことができた。 ・三者懇談・進路懇談の定期的な実施で、保護者との連携を深めることができ、非常に有効であった。来年度も継続して行う。また、授業参観や各種通信等で教育活動の公開と情報提供に努める。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・時間割や教育課程、授業担当者の持ち方、時間数等の改善を進める。職員が計画的に効率よく業務を行うことで、より生徒への組織的な指導ができるようにする。

学校関係者評価 (令和6年2月22日実施)

意見・要望・評価等
<p>新学習指導要領になり「思考力・判断力・表現力」と言われるようになった。今までもそれを大事にして育ててきているが、今後も継続してほしい。資格取得は自信になる。介護職員初任者研修について、特別支援学校の生徒であるが支援を受ける方ではなく、支援をする側になっていく。修了人数が多いことは素晴らしい。</p>

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【進路指導部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校

学校番号

106

自己評価

(進路指導部) 教育目標	・生徒一人一人が、自己肯定感と自信をもち、卒業後、地域社会の一員として、企業就労することで主体的に地域社会に貢献できるようにする。
評価する領域・分野	進路指導
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・企業での実習や、実習前後の取り組みを通して、生徒自身が成果と課題を明確にして、具体的な目標を立て、実践する経験を積み重ね、進路実現に向けて意欲的に取り組むことができた。職業観については、まだまだ甘いものがある。働くことについての基礎基本の育成に力を入れなくてはならない。 ・合同企業説明会では、積極的に質問する姿が見られた。また、保護者も真剣に耳を傾けており、進路への意識は向上していると感じられた。 ・アンケートでは、進路に関する情報提供、関係機関との連携等の項目で「あてはまる」の回答が、生徒保護者ともに8割を超えている。が、「わからない」の解答も複数あった。的確な情報を的確に伝えていく体制の整備をしていかなければいけない。また、今後も引き続き生徒の実態や保護者のニーズに応じた具体的な情報提供や関係機関との連携を行う。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に関する知識・技能を身に付け、勤労観・職業観を構成し、社会性を高める人間力のある生徒を育成する。 ・企業就労に向けて自ら具体的な目標を立て、着実に取り組む生徒を育成する。 ・企業向け学校見学会等の開催及びメールマガジンの配信を行い、障がい者雇用に対する理解の促進及び連携を図る。 ・進路情報の発信及び各種進路研修会の参加を促進し、保護者の進路意識の高揚を図る。 ・卒業生の進路先を訪問し、支援を継続することにより定着を促す。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたキャリア教育を進め、保護者と共に職業自立できる力を育成する。 ・卒業後を見通した校内組織の整備を進め、新規企業開拓を進める。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に選択した事業所での企業内実習や現場実習を実施。 ・事業所や関係機関を対象とした学校見学会や就労支援ネットワーク会議の実施。 ・1、2年生の生徒、保護者対象の合同企業説明会を実施 ・企業向けメールマガジンを配信。 ・障がい者雇用の理解を深め、積極的な職場開拓を実施。 ・雇用のニーズに応じた専門コース等授業の指導助言。 ・保護者向け進路説明会や進路だより等による情報提供、進路懇談の開催。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業内実習、現場実習における評価。(事業所側の評価、自己評価) ・保護者等を対象としたアンケートにおける回答。 ・生徒、保護者の就労意識の程度。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・専門コース関連業種の企業における企業内実習の実施。巡回指導と情報交換。 第1期(全36事業所) 第2期(全36事業所) 第3期(全35事業所) ・現場実習の実施 2年生 第1回(全45事業所) 第2回(全42事業所) 3年生 第1回(全35事業所) 第2回(全34事業所) ・3年生進路状況 企業就労29名 福祉就労5名(A型4名、移行支援1名、未定2名) ・企業や事業所向け学校見学会(21事業所 41名)及び・企業向けメールマガジンの配信 ・職場開拓(訪問数:234事業所 新規受入事業所数:62事業所) ・就労支援ネットワーク会議(17事業所 24名) ・合同企業説明会(19事業所) ・関係機関との連携 ・卒業生の定着支援 ・保護者向け進路説明会(各学年2回)、ハローワーク職員による講話、「先輩と語る会」、情報提供等(進路だよりの定期発行、進路指導室の整備)
評価の視点	評価
①生徒の勤労観や職業観を高めることにつなげることができたか。	A (B) C D
②本校の教育や障がい者に対する理解を深め、実習協力事業所を拡大できたか。	A (B) C D
③保護者や地域に対して、進路に関する情報提供が適切にできたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○企業と連携を図り、細目にやり取りを行うことで8月には8割以上の生徒が求人票を受け取ることができた。 ○合同企業説明会の開催、進路だより発行等を計画的に実施し、進路に関する情報提供ができた。 ○企業向け学校見学会の実施や職場開拓により、新規受入事業所が拡大できた。 ▲就職先や関係機関との連携を図りながら、離職前に訪問指導できる体制を整える。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・専門コースを軸にしながら教育活動全般で就労に向けての取組を行い、生徒の実態に応じた具体的な目標や指導内容を設定し、共通理解のもと組織的に実践していく。 ・職員による職場開拓と保護者の協力度体制の確立。 ・5月ごろに離職するケースがあったので、関係機関とさらなる連携を図り、定着支援を行う。

学校関係者評価 (令和6年2月22日実施)

意見・要望・評価等

「先輩と語る会」について、身近な先輩が話すことや、卒業後の先輩の姿に興味がある。卒業後の自分の姿と重ねることができ。継続して行ってほしい。コロナ禍で、3年生が1年生の時には3期のうち1期しか実習できなかった。不安だったが、しっかり進路が決まって良かった。定着支援について、離職前に相談に来るシステムを作ってほしい。保護者からも卒業しても学校に相談するように促してほしい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【生徒指導部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校

学校番号

106

自己評価

（生徒指導部） 目標	一人一人の健全な成長を促し、現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成するとともに、自他の生命を尊重し、思いやりの心や倫理観や道徳観、規範意識を体得できるよう指導する。
評価する領域・分野	生徒指導・教育相談・人権教育・特別活動（生徒会・委員会・MSL活動）・部活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する項目では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が生徒84%（昨年89）、保護者75%（昨年82）となっている。事案は減少しているが、いじめに対する学校の対応について、周知する必要がある。 保護者項目29の「身を守る教育」については、「わからない」の回答が多い。情報を更新し、家庭にも伝わる指導ができるようにする。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 学年や関係分掌と連携した生徒指導・教育相談体制を構築し、継続的な生徒指導・生活指導、問題行動に対する指導を充実させる。 各種講話、学習を実施し、トラブルやリスクを回避できる力を身に付ける。 生徒会活動や部活動を通して、主体性、自己を生かす能力を育む。 アンケートや相談を実施し、心の問題等に対し早期発見・対応に繋げる。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 学年主任を中心とした学年による継続した生徒指導の実施。 教務部と連携し、生徒指導に係る取組について年間を通して計画、調整。 不登校や問題行動等に対する支援部、養護教諭との連携。管理職との相談。 生徒会活動を活発に行えるように、放課後等を柔軟に活用。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部と学年が連携し、学年での日常的な生活指導の実施。 生徒との面談を日常的に行い、悩みや不安に即時対応する。 時節や生徒の傾向に応じて、集会や外部講師による講話、学習の設定。 年間を通じたアンケートや相談の実施。SCや外部機関の活用。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動等に対する生徒指導体制、組織的な対応。外部機関との連携。 学習活動等における生徒の姿（規範意識、主体的な行動等） 生徒指導事案、情報モラル違反事案、事故等が軽減あるいは減少。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動事案等に対する関係者との日常的な連携、各種委員会の実施。 清流祭、生徒会活動、部活動、MSリーダーズ活動の実施。 交通安全、情報モラル、薬物乱用防止、人権学習等、自他を大切にするための教育の実施。 生徒のニーズに合わせたSCや校内支援会議と教育相談活動。
評価の視点	評価
①問題行動等において、生徒指導部が他と連携し、組織的に対応できたか。	A B C D
②生徒が規範意識をもち、主体的に活動する姿が見られたか。	A B C D
③積極的な生徒指導を行い、問題行動や事故等が軽減あるいは減少したか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○問題行動に即時対応した。発生時は、学年や関係者と連携し迅速な対応ができた。 ○生徒会執行部を中心に挨拶運動を継続し、規範意識の向上や生徒自身による呼びかけができるなど、「挨拶ができる学校づくり」に取り組むことができた。 ○各種講話や学習について、実施方法を改善しながら行った。繰り返し学習を行うことで、生徒自身が自分の課題として、考え、行動するようになった。 ▲問題行動の未然防止活動に不十分な面があり、改善の必要性を感じた。 	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動が発生する前の未然防止にかかわる教育の充実と啓発活動を拡充する。生徒会と連携して、生徒が自主的に啓発活動を実施するなど、生徒が主体的に活動していける取組を実施する。 SCや外部機関の活用について、アンケートや面談をもとに、積極的活用ができるように、生徒や職員に具体的な内容を周知する。

学校関係者評価（令和6年2月22日実施）

部活動を活発に行っていることが分かった。特別支援だけではないところでも活躍している。引き続き頑張ってほしい。問題行動を0にするのは難しい。起きた後の対応を丁寧にやってほしい。「生徒に伝わる、分かる指導」「生徒が繰り返さないような指導」を行ってほしい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【保健安全部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校

学校番号

106

自己評価

(保健安全部) 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが運動に親しみ、健康や安全に留意しながら学校生活を送るための知識や意欲、態度を育成する。 ・校内安全管理、災害対策を行い、事故のない安心・安全な教育環境の充実を図る。
評価する領域・分野	保健管理、安全管理、緊急時の対応、医療機関との連携
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者・学校評議員ともに「感染症対策」「緊急時の対応」について、この4年間を通じて概ね90%前後の「あてはまる」の評価を得ている。 ・生徒の「健康管理・家庭との連携」については、「あてはまる」が88%（昨年91%）であったが、さらに徹底を図り、生徒にもその対応が伝わるように改善していく。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒の課題に即した保健教育を充実させるとともに、感染症の予防と発生時の対応を充実させ、学校環境の衛生管理に努める。 ・スポーツ交流会等の学校行事や保健体育の授業を充実させる。 ・様々な想定での各種訓練を実施し、命を大切にできる生徒を育てる。 ・施設管理、校内美化を推進し、公共物を大切にできる態度を育てる。 ・災害時に適切な対応ができるよう地域と一体となって防災力を高める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、体育、防災、環境の4項目を重点目標に関連付けた業務分担を行う。 ・担任や生徒会(委員会)と連携して、保健や安全、環境衛生の維持、改善に努める。 ・地域、学校、専門家が連携した危機管理体制を確立する。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な想定での訓練を実施し、適切な判断や行動ができるようにする。 ・年間計画を作成し、各分野の専門家の協力を得て、食育、性教育、防災教育を推進する。 ・外部講師を活用した各種講話や研修を設定する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、職員の健康や安全に対する調査を行い、継続的な取り組みの状況を確認する。 ・各取組に対する改善アンケート(職員)の分析結果と改善点を提示する。
取組状況・実践内容等	<p>【保健】 感染症・食物アレルギー対応、性講話、性の相談週間、性のLHR、保健だより発行、救命救急研修、食育セミナー、歯科指導、健康相談・啓発指導</p> <p>【体育】 新体力テスト、身体測定、スポーツ交流会・研修</p> <p>【防災】 命を守る訓練、非常変災時対応訓練、高校生防災アクション、防災だより発行</p> <p>【環境】 安全点検、備品管理と整備、清掃（日常・定期）</p>
評価の視点	評価
①訓練や研修等の体験的な活動を通して、生徒が健康で安全に生活することができたか。	A (B) C D
②職員の安全に対する危機管理意識、専門性を高めることができたか	A (B) C D
③安心安全な学校となるための危機管理体制を整備することができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○感染症の予防対策を徹底し、全校態勢で感染症予防に努めることができた。 ○性教育、食育は年間計画を立て、専門家と連携し、一連した取り組みができた。 ○命を守る訓練を消防署員立ち会いのもと実施し、場面に応じた防災意識を高めることができた。 ○性教育では専門家の講話を聞く機会を設けた。3年間で定期的に学ぶ取組が定着してきた。 ▲行政や地域と連携し、避難所開設訓練を実施する。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策の徹底と更新を行い、生徒と職員が感染しないように取組を継続する。 ・性教育、食育、防災は3年間で必要な知識を学び、経験が積めるように計画的に取り組む。 ・一般教科と連携し、がんや精神疾患に関わる教育を推進する。 ・行政、地域、学校が連携した防災体制の確立と訓練を実施する。

学校関係者評価 (令和6年2月22日実施)

意見・要望・評価等
<p>コロナは5類になっても、まだ無くなったわけではない。自分で自分の健康に気を付けることができるようにしてほしい。</p>

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【研修支援部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校 学校番号 106

自己評価

(研修支援部) 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業就労を見据え、個に応じた指導・支援、合理的配慮の提供ができるよう、研修や相談活動の充実を図る。 ・総合産業科における専門性の高い職業教育を推進するための研修・研究活動を行い、指導内容の充実を図り、進路指導力と教育実践力を高める。
評価する領域・分野	「研修（資質向上の取組）」「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は生徒、保護者との懇談が十分に実施できており、個別の教育支援計画は生徒の実態を捉え、生徒や保護者の意見を反映したもになっている。 ・分かりやすい授業で一人一人に合った教材や教具が準備されているという意見が生徒からは多くあったが、保護者からは授業内容や進度について生徒の実態に即しているかどうかは分からないという意見があった。参観や懇談を活用し、授業内容など伝えていくことが必要だと感じた。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門教科及び一般教科に関する指導・支援などの実践力を身に付けることができるような研修を実施し、軽度知的障がいのコア・スクールとしての専門性を高める。 ・障がいや心理、教育内容に関する専門性や学校の組織力を高めて、課題解決ができるように研修の充実を図る。 ・個別の教育支援計画の作成と活用について支援し、相談支援、支援会議、ケース会議を行い、生徒の社会自立に向けた支援の充実や共通理解を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・研修主事やコア・ティーチャー、専門教科主任統括、一般教科主任統括、分掌長と連携 ・職業教育推進委員会、教科主任会の運営 ・各学年の個別の教育支援計画担当者、学年主任と連携
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・専門教科及び一般教科に関わる研修や会議を適切な時期に実施する。 ・個別の教育支援計画の作成支援と管理を学年単位で行う。 ・相談支援を行い、必要に応じて支援会議、ケース会議を開く。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートの分析結果 ・実践集などからわかる教育実践、生徒の姿
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・校外研修（岐阜県特別支援学校研究会等） ・研修案内 ・実践集 ・コア・スクール事業 ・校内支援会議 ・ケース会議 ・個別の教育支援計画 ・地域支援センター ・センター的機能充実事業
評価の視点	評価
① 職員研修などを通して進路指導力や教育実践力を高めることができたか。	A (B) C D
② 個別の教育支援計画の作成支援や相談支援を行い、三者懇談を通して共通理解を図ることができたか。	A (B) C D
③ 職員の専門性や学校の組織力を高めるような、研修会を運営したり、研修案内をしたりすることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○研修主事やコア・ティーチャー、専門教科主任統括が中心となって、専門教科及び一般教科に関する指導・支援などの実践力を身に付けることができるような研修を実施することができた。 ▲校務支援システム「個別の教育支援計画」の分掌として、移行に伴う準備が足りなかった。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者から聞き取った情報を個別の教育支援計画に分かりやすく表記できるように教員へ記入例を示すなどの支援をする。 ・引続き教員の進路指導力と教育実践力を身に付けることができるような研修や会議が運営・実施できるように内容と方法について見直す。

学校関係者評価 (令和6年2月22日実施)

意見・要望・評価等	<p>校務支援システムのことが挙げられていた。「個別の教育支援計画」の作成は大変である。システム導入のスタートは大変かも知れないが、事務仕事に忙殺されることなく生徒に向き合う時間が増えるようになると良い。</p>
-----------	--

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【渉外部】

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校

学校番号

106

自己評価

（渉外部） 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール制度に伴い、生徒が地域の中で所属感や一体感を味わい、地域社会の一員として生きていく自覚や自信を持つことができるよう、交流及び共同学習、地域社会と生徒が一体となった活動を強化し、推進する。 ・生徒の健全な発達及び福祉の増進を図るため、保護者が主体的にPTA活動に取り組むことができるよう支援する。
評価する領域・分野	「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「5いろいろな人との交流を大切にし、生徒の経験を広めている」に当てはまる、やや当てはまるに89%、「28 地域との交流事業や地域の施設・人材を積極的に活用し、地域との連携強化を進めている」は83%あり、保護者の地域交流への関心の高さが伺える。また、「30 保護者と一体になって、PTA活動を進めている」は86%あり、PTA活動に積極的な保護者や協力的な保護者が多く、良い活動となっていることが伺える。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の社会性や豊かな人間性の育成を目指し、交流及び共同学習を推進する。 ・役員や委員長と連携を図り、保護者の主体的なPTA活動を支援する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・交流校や地域の自治会連合会との連絡調整をもとに、関係部署との連絡調整を行った。 ・PTA会長と相談しながら方向性を決め、役員へ意見を図りつつ活動を推進する。 ・PTAの専門委員会ごとに担当者を決め、委員長と連携を図りつつ活動を推進する。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流として、学校交流の計画・実施 ・地域交流として、地域の清掃活動や文化祭などの参加計画・実施 ・PTA役員や各専門委員長を中心としたPTA活動の計画立案・実施。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流、地域交流を通し、生徒の社会性や豊かな人間性を育むことができたか。 ・主体的なPTA活動を推進することができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会、役員会4回、執行部会2回(役員推薦委員会)、各専門委員会3~4回実施。 ・PTA企業見学会、PTA研修会・清流祭への参加(日用品バザー、ゲームコーナー) ・外部団体の研修会への参加。高P連、特P連、知P連、障がい者福祉振興大会など ・岐阜城北高等学校家庭クラブと本校福祉コースと食品コースとの交流を実施。 ・地域での清掃ボランティア交流を2回実施。(山田川周辺の清掃活動)
評価の視点	評価
①コミュニティスクール制度の視点に立ち、地域の自治会連合会長と相談・連絡を行い、行事を計画立案することができたか。	A B C D
②生徒の社会性や豊かな人間性の育成のための学校行事や学校間交流、地域交流に関する計画立案・実施ができたか。	A B C D
③主体的なPTA活動を推進するために保護者と連携を図ることができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○対面での交流活動をコロナ禍以前の活動を目指して、地域の方や交流校と相談・連絡を取り合い、可能な方法を検討し、一部オンラインを活用して交流することができた。 ○地域の清掃活動を自主的な参加を通して行った。当日の活動では、生徒は除草作業をしながら、参加住民の方々と会話するなどコミュニケーションをとる姿が見られ、地域から期待されていることを実感させることができた。 ○各担当者がPTA役員や各専門委員長と連携を図り、計画的に各委員会活動を推進することができた。PTA行事を他の学校行事と同じ日に実施することで、保護者からPTA活動に参加しやすかったという意見が多かった。今後も保護者が参加しやすいよう、活動日や運営方法を検討していく。 	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流は、地域交流委員会と連携し、生徒が主体的に参加していけるよう支援する。 ・コロナ禍の制約も緩和され、学校外での交流会や研修会が対面で実施されてきたので、他校の取り組みを積極的に参考にして、リユース活動の運営をすすめていきたい。

学校関係者評価 (令和6年2月22日実施)

意見・要望・評価等	<p>地域との連携について、希望者だけでなく生徒会やMSリーダーズが参加することは良いこと。参加の良いきっかけになるのではないかと。PTA活動の推進について、「保護者との連携」がA評価なのが素晴らしい。今後も継続して行ってほしい。</p>
-----------	---